

南アフリカ ネーブルオレンジの輸出予測を14.5%下方修正

[FreshPlaza 2024年5月30日](#)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は今週のオレンジ品目別グループの会議の後、オレンジの輸出予測を下方修正した。現在、ネーブルオレンジの輸出量は2,200万箱(15kg/箱)と予測されている。これは、シーズン開始時の推定値である2,560万箱から14.5%の大幅な下方修正となる。新しい予測値はまた、南アフリカが海外市場に合計2,480万箱のネーブルを出荷した昨年に対して11%の減少となる。

CGAのジャスティン・チャドウィックCEOは声明で、今シーズンの予測値の調整を余儀なくされた要因はいくつかあると次のように指摘している。「現在、国内の搾汁用柑橘類の価格が高く、多くの生産者がこのチャンスを活用している。国の大部分で見られた暖かく雨の少ない天候のために、果実のサイズもやや小さくなっている。これは、昨年に対して、15kg箱に詰め込む果実の個数が増えたことを意味する。また、西ケープ州では強風による落果が見られ、リンポポ州の一部(グロブラスダール地域及びマーブルホール地域)では雹の被害が発生した。」

ヨーロッパ市場でのエジプト産オレンジの増加も影響している。エジプトは南アフリカと季節が逆であるが、ヨーロッパ市場でのエジプト産オレンジの(現在のような)増加は、南アフリカ産の出荷シーズン初期の需要に影響を与える。

ネーブルオレンジは、南アフリカ産柑橘類の総輸出量の約17%を占めている。

バレンシアオレンジも4%の下方修正

バレンシアオレンジの輸出予測も5,600万箱強(15kg/箱)と、シーズン当初の予測から4%減少した。ただし、今はバレンシアの出荷シーズンの序盤であり、さらに減る可能性がある。昨年、南アフリカは5,200万箱のバレンシアを海外市場に出荷した。バレンシアは、柑橘類の総輸出量の約31%を占めている。

南アフリカのオレンジ生産量の全般的な増加は、今後10年間、緩やかな成長路線をたどる見込みであることに留意することが重要である。ただし、2024年の収穫量が増えたからといって、必ずしも輸出市場に過剰な量のオレンジが出荷されるわけではなく、それにより供給過剰のリスクは低くなる。

(関連記事)南アフリカ オレンジ果汁の価格高騰は輸出業者のチャンス

[FreshPlaza 2024年5月30日](#)

ブラジルの作柄の問題でオレンジ果汁価格が高騰

オレンジ果汁の先物は、ニューヨークのインターコンチネンタル取引所で大幅に上昇し、価格は過去1年間でほぼ2倍になった。この急騰は、ブラジルのオレンジの作柄に対する気象パターンの変化と病気による悪影響に起因している。ブラジルは米国カリフォルニア州と並んでオレンジ果汁の主要輸出国であり、一方、南アフリカは世界第2位の柑橘類果実の輸出国である。

世界的なオレンジ果汁不足に照らして、柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは、南アフリカの実産者にとっての潜在的な利点について論じた。同氏は、国内の加工オレンジ果汁の価格が、1トン当たり約1千ランドから3千ランド以上に劇的に上昇したことを指摘した。この価格上昇は、生産者が限界的な(低品質の)果実の一部を果汁生産に転用する機会を提供し、業界を後押しする可能性がある。

2023年に運輸公社の港湾運営の失敗がもたらした課題にもかかわらず、柑橘類輸出部門は季節的なタイミングのおかげでほとんど影響を受けなかった。しかし、チャドウィック氏は、新しい港湾設備への投資不足やインフラの老朽化が今年の輸出にリスクをもたらす可能性があるとして、次のシーズンへの懸念を表明した。

出典: ewn.co.za